

●発行日:2015年1月17日(土)

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

発行:教材出版 学林舎

## 寒中お見舞い申し上げます

皆さまから、たくさんの年賀状をいただき心よりお礼申し上げます。  
励ましのお言葉、先生方のあつい思い、心あたたまる一言。  
心ひきしまる思いで読ませていただきました。  
2015年も、皆さま方と共に歩んでいきたいと思ひます。

学林舎スタッフ一同



## AKURINSHA TOPICS

### 阪神・淡路大震災からの学び 20年の時をこえて

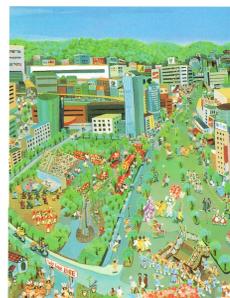
**阪**神・淡路大震災から今年で20年を迎える。私たちは多くのものを失った。「あの地震がなければ…」と思うこともある。ただ、あの地震がなければ、得ることもできなかったことも多い。失ったものの数より、何を得たのか、何を学んだのかを考える時期にきてるのではないだろうか。私、個人で言えばマイナスからの会社経営がいかに難しいかということはこの20年で学んだ。売上を維持、伸ばしつづければあとがない。綱渡りの経営は、心も体も消耗させる。両親も亡くなり、私は、この渦の中に巻き込まれ消耗していった。この20年間、様々な選択の機会があった。全てをゼロにすることも可能であったが、その選択をしなかった。選択しなかった最大の理由は「この苦境に負けたくない」「超えていきたい」という想いがあった。両親は苦境を超えていく前に志半ばで散っていったが、様々な人たちに私は助けられ、学林舎が提案する教材を使いつづけてくれる皆さまに支えられ、学林舎は震災で受けた苦境をようやく超え、次の段階に向けて歩みだした。

全てを放棄して、ゼロからスタートすることも私自身、

可能であったが、それをせずに“超える”ことを選んだのは様々な“想い”が学林舎に詰まっている。学林舎を選んでくれる皆さまがいる限り、走りつづければいけないと実感したからである。また、私自身、今の学習教育に対して“進化=深化”してほしいという想いがあるからにほかならない。

まだ20年、もう20年。人それぞれ、想いや感覚はちがう。ただ、残された私たちは生きている限り、進まなければならない。前へ、前へ。(北岡)

### 負けへんで 大震災体験発言集



「負けへんで」は、20年前の夏に子どもたちの震災体験の文章を集めた発言集です。発言集の中からいくつか紹介します。

## 震災の記憶—1995年発行「負けへんで」より

## 何か体が重くのしかかった

西宮市在住 中学3年生

**激**しい揺れで目が覚めた。何が何だかわからなかったけど、確かに揺れと何か体が重くのしかかるのだけは体で感じていた。

ようやく揺れがおさまってから、私はたんすの下から這い出た。

出た途端、頭の中は真っ白になり、体は怖くて震えがしばらく止まらなかった。

おさまって辺りを見わたすと、家の中は無茶苦茶になっていた。

外に出るにも、玄関まで進めない。

やっとの思いで外に出ると、嘔然……。

一言も声が出なかった。

陽が昇ってから、姉と二人で、歩きまわった。新幹線の線路はあちらこちらでくずれていて、ほとんどの家は倒壊していて、びっくりした。

私の学校では五人、学年では二人の死者が出た。

一人は圧死、一人は土砂で生き埋めになった。私は話を聞いただけでは気がすまなかったので土砂崩れの所へ行った。本当に家が見当たらなかった。

それを見た時、私は心の底から地震を憎みました。

なぜ、私たちがこんな地震を体験しなくてはならなかったんだろうと思った。

体験していない人たちは日が経つにつれて忘れていつている人が多いと思うけど、この地震のことだけは、ぜったいに忘れないでほしいです。

各地方から救援物資をもらった時、とてもうれしかった。こんなに心配してくれてるんだから、頑張らなくてはならない気持ちになります。

私はこの震災のことを一生忘れることはできません。

## この町でがんばろう

宝塚市在住 中学2年生

**私**がぐっすり寝ていたらいきなり大きな音がして家が揺れました。私はドロボーがはいってきたかと思いました。びっくりして思わず床にしがみつきました。ガラスとかが全部揺れていました。本当にこんなことがあるのかとその時はじめて実感しました。いつもテレビとかで見てても、そんなにすごくびっくりしたりもしませんでした。そして、日が上るにつれて地震のすごさがわかってきました。ガラスや食器が全部われて、びっくりしました。

近所の人たちが「大丈夫ですか」って来てくれました。私の家は、電気は朝の七時ごろにきてテレビをつけてみると大震災の神戸がうつっていました。高速道路がたおれて、火が神戸の町をおおっていました。以前の神戸とは全然対照的でした。何日たっても火が消えず、みんなは余震の怖さで震え、夜も安心できずに寝れなくて、疲れがたまり、私も水くみとかしていました。でも、自分の生まれた町だから私は宝塚の町が好きだし、この町でがんばろうと思いました。

全然知らない人たちがお互いに助けあって、みんなが協力しあっていました。

私たちの地域はそんなに神戸のようにひどくはなかったけど、家族が死んでしまった人もいるし、もうすぐ卒業や入学する人たちだっていました。みんなが助け合って、他の地域から救援物資が届いて、みんな役にたったと思います。これからもまたこんなことがあってもみんな協力しあえると思います。

## 水がでる、入浴できる

芦屋市在住 中学3年生

**地**震はスキー合宿へ出発する予定の朝だった。僕はまだ寝ていた。遠くから通う友人は電車に乗っていたという。そんなにゆれたと思わなかった。ねこが目をまん丸にして固まっていて一週間ほどものを食べなかった。外に出てみるとひどかった。ガスと水道がふき上げていて数日くさくて気分が悪くなった。パソコンの無事をたしかめにいって親にあきれられた。水がでる、家で入浴できる、そんなことがこんなに大事なことは思っていなかった。歩いて様子を見に来てくれた知り合いの人はすごいな！余震よ来るなよ。



「神戸よ」  
地震に  
負けるな!!  
Fight

写真・文/神戸市東灘区在住 中学3年生

## 全国学力・学習状況調査を考える

**平** 成27年の全国学力・学習状況調査は、4月21日に  
おこなわれる。学力テストと言われているが、実  
際は、文部科学省が中心となって実施する調査である。調  
査の目的を文部科学省は下記のように示している。

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全  
国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の  
成果と課題を検証し、その改善を図る

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改  
善等に役立てる

◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サ  
イクルを確立する

調査対象は、国・公・私立学校の小学校第6学年、中学  
校第3学年。原則として全児童生徒。調査内容は国語、算  
数・数学、理科。問題はAとBに大きく分けられる。

Aは「知識」に関する問題。「身に付けておかなければ  
後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容」「実生活にお  
いて不可欠であり常に活用できるようになっていることが  
望ましい知識・技能」など。

Bは「知識」を活用する問題。「知識・技能等を実生活  
の様々な場面に活用する力」「様々な課題解決のための構  
想を立て実践し評価・改善する力」など。

このような科目別調査に加えて、生活習慣や学習環境等  
に関する質問用紙にこたえる調査がある。この調査結果を  
もとに学習教育を改善すべく様々な提案を文部科学省はお  
こなっている。

- ・授業アイデア例の提案
- ・全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組  
が期待される内容のまとめ
- ・全国学力・学習状況調査において特徴ある結果を示した学校に  
おける取組事例集
- ・全国学力・学習状況調査の結果を活用した実践研究の成果報  
告書
- ・全国学力・学習状況調査の結果を用いた追加分析

など

全国学力・学習状況調査が実施された背景には、PISA  
(65カ国の地域・約51万人参加の調査テスト)の結果が悪  
かったことにある。そのため、学力の底上げを考え、学習  
指導要領の改訂(脱ゆとり)、全国学力・学習状況調査、  
スーパーサイエンスハイスクール制度(SSH)などの具  
体的な政策を文部科学省を中心におこなわれてきた。2012  
年の最新のPISA調査によれば、数学的リテラシーは7  
位。読解力・科学的リテラシーは3位である。過去の状況  
と比較すると今おこなっていることが、成果としてでは  
ない時間が必要である。

ただ、学習教育に関しては、まだまだ、改善すべき点は  
多い。反転授業などの新しい取り組みが行われているが、  
さらなる官民一体となった改革に加えて、大人たちの学習  
に対する改革も必要である。自分たちが受けてきた学習教  
育を見直し、グローバル社会に対応すべく、柔軟な思考が  
求められる。大人が進化(深化)しなければ、子どもも進  
化(深化)することは難しい。大人だから、子どもだから  
という思い込みを外し、共に学びあう力、共に創りあげる  
力が求められるのではないだろうか。

## 高大接続の可能性

**中** 央教育審議会は昨年末「新しい時代にふさわしい  
高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、  
大学入学者選抜の一体的改革について」を発表した。少子  
化による大学全入時代、グローバル化、センター試験改革  
などの様々な課題が含まれている。この課題をクリアして  
いくために、“高大接続(高校・大学の連携)”の必要性  
があることを述べている。ただ、高大接続は様々な制度・  
組織的な改革をするため、時間はかかる。しかし、この改  
革なくして、世界を生きる自立した人材を増やすことは難  
しいと言える。現在、学習教育は経済格差が教育格差につ  
ながっている状況と言われているが事実である。秒単位で  
世界は進化しつづけている状況において、求められる学力  
は日々、変化していつている。この変化に対応するには、  
様々な学習が子どもたちに求められる。

高大接続はもちろんのこと、様々な教育改革をおこなわ  
なければ、日本は国として危機的な状況にたたされること  
になる。

# 国語を 考えてみる

文/学林舎国語顧問 森本 秀俊

## ああ、素晴らしき哉、日本語⑨

**あ** けましておめでとうございます。2015年が始まって早くも半月以上が過ぎてしまいました。「光陰矢のごとし」ということわざ通り、月日の過ぎるのはとても速いですね。正月気分はあっという間にぬけてしまいました。

私は子どものころ、正月の三が日が身もこがれるくらい好きでした。お年玉はもらえるし、友だちからくる年賀状は楽しみだし、テレビ番組は朝から晩までおもしろいし、料理はおいしいし、子どもなのに「赤玉ポートワイン」を飲ませてもらえるし……、とにかくいいことづくめだった記憶しかありません。最近の正月は、そのころの百分の一も楽しくないなあ、と感じてしまうのは、どうしてでしょうか。お年玉をもらう立場から出す立場になったのが悔しくて悔しくて……、などというせこい気持ちで言っているのではありません。昔は正月、特に元旦というのは本当に特別な一日であったような気がします。初詣に行ってもたいていの店は閉まっていて、みんなが「元旦を愛でなくてはい」という気持ちが強かったような気がします。しかし、最近元旦から開いている店も多く、普段の日と何ら変わらないような雰囲気が街にただよっています。ハロウィンやクリスマスで大騒ぎするのもいいけど、日本人なんだから、正月をもっと愛しておくれよ、と感じるのは、私だけでしょうか。

子どものころの正月での楽しみの一つに「百人一首」がありました。正月には近所に住んでいる親戚がうちに集まってきて、「新春恒例 森本杯争奪 大百人一首大会」が開かれました。その大会にはたいてい、6～7人の参加者がありました。私も小学6年生くらいのころには、七十近い和歌を暗記していて、ひそかに優勝をねらっていました。しかし、上には上がいるも

ので、三つ年上の兄貴は九十近く暗記し、近所のおばちゃんにいたっては、おそらく百枚全部暗記していました。そのいきさつもあり、本命 おばちゃん 対抗 兄貴 穴 私 という予想がたてられ、その予想通りに、優勝はいつもおばちゃんか兄貴、私はたいてい三位に甘んじるといった結果になりました。

「むすめふさほせ」という言葉をご存知でしょうか？ 百人一首には、上の句と下の句があります。

村雨の 露もまだひぬ まきの葉に …上の句  
霧立ちのぼる 秋の夕暮れ …下の句

百人一首は、読み手が上の句をよんで、競技の参加者が下の句が書かれた札を取り合うというゲームであることはご存知だと思います。そして、上の句のある字がよまれたときに、下の句、つまり取り札が決まるという文字を「決まり字」といいます。「むすめふさほせ」というのは、その「決まり字」が一字であるという和歌です。つまり、読み手が「むらさめの」とよみ始めたとき、「む」と聞いただけで、「きりたちのぼる あきのゆふぐれ」という札が取れるというわけです。

この「むすめふさほせ」のことを知った年に私は、親戚の前でいい格好するために、「む」が出た瞬間に「きりたちのぼる」を取ってやろうと、ずっとその札に集中していました。「む」、「むむ」、「むむむ」。しかし、その札はなかなか出てきません。「む」、「むむむ」。私の目の中にはもう「きりたちのぼる あきのゆふぐれ」の札しかはいていませんでした。そして、やっと「む」が出たのが、残り十枚を切ったとき。「キター！」と心の中で叫び、手をのばした瞬間、札の近くにいたおばちゃんの手が、私の手の下にすっともぐりこみました。「さすが、〇〇おばちゃん」みんなから称賛され、にこにこ笑うおばちゃん。完璧に作戦ミスをおかした私は、その回はブービー賞に甘んじたのでした。

日本の伝統文化が生み出した「百人一首」。このすばらしき遊びが復活することを信じています。

ああ、素晴らしき哉、日本語。(つづく)

# 算数・数学から見える世界

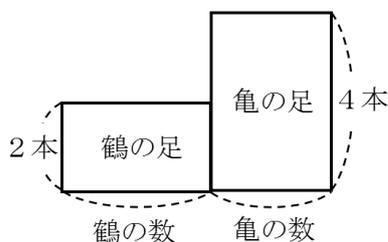
文／学林舎算数・数学顧問 深見 和孝

今年、1回目のコラムとなります。そこで、今回のコラムのテーマは、年初めにあって縁起の良い「鶴と亀」にしました。算数で「鶴と亀」といえば、「つるかめ算」です。この算法を知っている方は多いかと思いますが、「名前を聞いたことはあるが、どんなものかはよく知らない。」という方もおられるでしょうから、まずは、「つるかめ算」の問題をとり上げます。

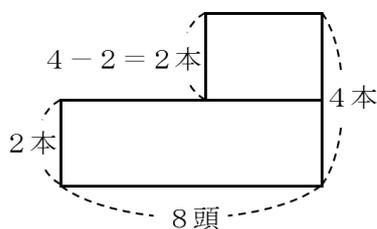
**【問題】**鶴と亀が合わせて8頭います。足の本数を数えると、全部で22本ありました。鶴と亀はそれぞれ何頭いるでしょうか？

もちろん、鶴1羽の足は2本、亀1匹の足は4本です。解き方は教える人によって色々ですが、方程式を使って解くと簡単ではあるのですが、ここでは、図を使った解き方をご紹介します。

まずは、下の図を見てください。2つの長方形の面積は、それぞれ鶴の足と亀の足の本数を表しています。つまり、図形全体の面積を22(本)と考えて、長方形の横の長さを求めればよいのです。



この図形を、下の図のように、上の図とは別の2つの長方形に分けてみましょう。下側の長方形の面積は、 $2 \times 8 = 16$ より、16(本)です。これは、8頭全部が鶴であった場合の足の本数です。そして、全体の面積は22(本)なので、上側の長方形の面積は、 $22 - 16 = 6$ (本)です。もう、おわかりでしょうか？上側の長方形の縦の長さは $4 - 2 = 2$ (本)なので、横の長さは $6 \div 2 = 3$ (頭)とわかります。これが亀の数です。鶴の数は $8 - 3 = 5$ (頭)です。



ところで、みなさんは、「つるかめ算はヘンだ。」と思いませんか？鶴と亀が一緒にいる様子を思い浮かべてください。鶴の極端に細長い足と、亀の太短い足を一緒に数えようとするのでしょうか。なぜ、「猿の足と猫の足」や「タコの足とイカの足」ではないのでしょうか。私は、ずっとヘンだヘンだと思っていたのですが、最近になって気づいたことがあります。鶴の足と亀の足のように普通は一緒に数えそうにないものを題材にしたのは、作者のシャレだったのでは？（もちろん、鶴と亀は縁起が良い動物だからという理由もあるでしょうが）

江戸時代に書かれた有名な算数の本に「塵劫記(じんこうき)」というものがあります。この本に「つるかめ算」は載っていないようですが、色々面白い問題が書いてあります。たとえば、「布盗人算(きぬぬすびとざん)」というのがあります。中学受験問題では「過不足算」と言い換えられているもので、次のような問題です。

**【問題】**橋の下で盗人たちが盗んだ布を山分けしている話が聞こえてきます。「布を7反ずつ分けると8反余り、8反ずつ分けると7反足りなくなってしまうなあ。」さて、盗人たちは何人いて、布は何反あるでしょうか？

算数の問題にドロボウが15人(答えです)も登場するなんて、シャレがきいています。当時の大人(江戸っ子)たちを楽しませるために書かれたことがうかがわれます。当時もドロボウはとんでもない悪い奴らであったので、一方で善い題材や表現にこだわらない姿勢が新鮮です。(橋の下でドロボウが集まっていたら、すぐに警察に通報するのが模範的な市民です。)上手く説明できないのですが、江戸時代の善悪の分け隔て方は、現代よりもずっと緩やかだったのかなあ、と思えます。

布盗人算を現代風にアレンジして、「カラオケボックスで、下着ドロボウたちがパンティを山分けしています…」という問題原稿を渡したら、編集者(出版社)はどんな反応を示すだろうか？ひょっとしたら、私は大事な取引先を1つ失うリスクを覚悟しなければならないかもしれません。でも、400年後に、「昔は、一銭にもならなくても、下着を盗むユニークなドロボウがいたんだなあ。」と興味深く読んでくれる人がいるかもしれないことを想像すると、どうにも書いておきたい気分になってしまいます。

(つづく)

# クロスロード Crossroad

第41回 文／吉田 良治

## スポーツで一年の始まり

正月といえば日本では社会人や箱根の駅伝、大学ラグビー、高校サッカーやラグビー、そしてアメリカンフットボールの日本一を決める大会、アメリカでも大学のアメリカンフットボールのボウルゲームと、新年からスポーツの大きな大会が目白押しでした。今年のように寒波の正月では、野外でスポーツをする選手たちにとって、大変だったと思います。家のぬくぬくとしたところで、テレビ観戦した私にはそのご苦労は測り知れません。勝ったチームにはお祝いを、そして破れ去ったチームにはまた来年再起を願っています。

さて私は元日を2度アメリカの大学アメリカンフットボールのボウルゲームで迎えたことがあります。1度目は2001年のローズボウルで、ワシントン大学のアシスタントコーチとして、そして2度目は2010年のシュガーボウルで、フロリダ大学のインターンコーチで参加した時です。どちらも伝統的な四大ボウルゲームと呼ばれる大会で、過去双方のボウルゲームから全米チャンピオンを数多く生み出してきた大会です。幸運にも私が参加した両ボウルゲームともチームは勝利を収め、新年早々素晴らしい時間を過ごさせていただきました。

今年はその両大会が、全米ナンバー1を目指すプレーオフの試合となりました。以前は記者投票などによるランキングで全米一を決めていましたが、1998年以降公式戦でのランキング1位と2位で、最終決着を決めるシステムを採用してきました。しかし強豪チームがひしめきあっている中で、ランキング上位2チームでの決着では、勝率が変わらない他のチームからの不満もあり、今年からはランキング上位4チームによるプレーオフになりました。どの大学が一番強いのかをより明確にする上でも、今回の変更は良かったのではないかと思います。

結着を付けるという点では、最近様々なスポーツの採点や判定に、ビデオを活用するようになってきました。オリンピックでも色々な競技でビデオ判定が採用されていますし、日本のプロ野球でもホームランに限りビデオ判定が採用されています。アメリカのMLBやNFLではチャレンジと言って、微妙な判定にはチームからビデオ判定を要請する仕組みもあります。審判がその場で判定するだけでなく、微妙なケースにおいては、誤審になるケースもありますので、ビデオの活用はある程度必要なものとなって行くでしょう。

ただ何でも機械任せにしたら、人間の判定はそもそも必要なくなるわけで、ラグビーのアドバンテージのように、試合の流れを見ながらの絶妙なさじ加減は、人がするから可能になるのであって、いわゆる空気を読むということは人であるからできることです。昔『私がルールブックだ!』と言って、判定に抗議した選手を一蹴した審判がいましたが、それが後で誤審であったとわかって、選手はあの審判の誤審なら許せる!といったそうです。そんな人間的なものの考えも、時にスポーツにはあっていいのかもしれない。

ウインタースポーツも佳境に入りますが、それと入れ替わりに2月になると、プロ野球がキャンプに入ります。プロ野球では2月1日が元日と同じ、と言われています。また新しいシーズンが始まります。今年も色々なスポーツで、たくさんのドラマが生まれることを願っています。Good Luck!!

### 吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出場し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した、ランブライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。

全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog

<http://ameblo.jp/outside-the-box/>